

令和7年度上期 関東森林管理局事業評価技術検討会 議事概要

1 日 時

令和7年7月23日（水） 13：40～15：10

2 会 場

利根沼田森林管理署内会議室

3 出席者

技術検討会委員（50音順）

岩岡正博委員、鈴木拓郎委員、林宇一委員、山崎靖代委員

関東森林管理局

森林整備部長、計画保全部長、計画課長、治山課長、治山課課長補佐、治山課設計指導官、森林整備課長、森林整備課課長補佐、資源活用課長、企画調整課長、企画調整課監査官、企画調整課監査係長

4 議事概要

○完了後の評価について

[森林環境保全整備事業（奥久慈森林計画区）]
[森林環境保全整備事業（那珂川森林計画区）]
[森林環境保全整備事業（利根上流森林計画区）]
[森林環境保全整備事業（富士森林計画区）]

（委 員） シカ被害対策で、単木保護のものとシカ柵を設置するものがあるが、対策の使い分けはどうしているのか。

（関東局） コスト面から、小面積の箇所では単木保護や忌避剤を散布するなどの対策、大面積の箇所ではシカ柵の設置による対策と使い分けているが、豪雪地帯など積雪によりシカ柵が倒れるおそれのある地域は単木保護や忌避剤による対策を実施している。

（委 員） 忌避剤はどのようなものを使用しているのか。

（関東局） コニファーとランテクターを使用している。

（委 員） シカ対策を行うことと、コンテナ苗の植栽に整合性があるのかが気になる。コンテナ苗はシカの食害を受けやすいのではないか。シカ被害対策の面からいうと、コンテナ苗より大苗を植える方が良いのではないか。

（関東局） コンテナ苗は初期成長が良いことから、新芽を食べられる期間を短くするという面もある。近年は特定苗を積極的に導入しており、特定苗もコンテナ苗で製造されることから、コンテナ苗が多くなっている。

（委 員） コンテナ苗の使用は、シカ対策とはあまり関連がないということか。

（関東局） シカ被害対策の観点ではなく、低コスト化の観点から、コンテナ苗を積極的に植えていくこととし、安定供給が図られるよう検討しているところ。

（委 員） 苗木業者の作っている量としては普通苗とコンテナ苗のどちらが多いか。

（関東局） 国有林内では、ほとんどコンテナ苗を植え付けているため、普通苗からコンテナ苗へ切り替わっていると考ええる。

(委 員) 富士森林計画区の費用便益が平成27年度評価時点と比べると上がっているが、効率的な作業システムの導入により間伐面積が増えた結果であれば、そのことが分かるような記述にしてほしい。

(関東局) 御意見を踏まえ修文する。

(委 員) 地元の意見として、奥久慈森林計画区において豪雨等による皆伐跡地からの土砂流出等が懸念されるため、下流域への環境へ留意の上、実行いただきたいとあるが、実際にそのようなことが起こったことが背景にあるのか。また、利根上流森林計画区において県や市町村から情報共有をお願いしたいと意見が挙がっているが、国としてどのような取組を行っているのか。

(関東局) 福島県内で皆伐跡地において豪雨により土砂が流れたという話は聞いたことがあるが、国有林内でそのようなことが起こったわけではない。
また、各署等において現地検討会等を実施することで県や市町村へ情報共有を行っている。

(委 員) 路網の整備においては、開設は林業専用道のみで、林道は改良という理解でよろしいか。

(関東局) 各地域の森林計画において、開設は林業専用道の計画が圧倒的に多いため、そのような御理解で問題ない。

(委 員) コンテナ苗自体の単価が高く、またシカ被害に遭いやすいことから、コンテナ苗の植栽が低コスト化といえるのか。

(関東局) コンテナ苗は、普通苗に比べ活着が良いため季節を問わず植え付けができ、一貫作業システムに導きやすいことや1日当たりの植え付け本数が多いことからトータルでみると低コスト化と考える。しかし、委員がおっしゃる通り、コンテナ苗がシカに食べられやすいという話を聞くこともあるが、明らかにコンテナ苗の方が被害率が高いという確証もないため、今後の課題としたい。

(委 員) コンテナ苗は1日当たりの植付可能本数が、普通苗の約2倍であり、そういった意味ではコスト削減になっていると考えられる。

(委 員) 検討会の意見(案)について、各地域の状況を踏まえて内容を書き分けている点は良いと思う。

○期中の評価について

**[小良ヶ浜地区国有林直轄治山事業]
[西根川上流地区国有林直轄治山事業]
[頸城地区直轄地すべり防止事業]
[小山地区民有林直轄治山事業]**

(委 員) 地区によって、災害防止便益を採用しているものと山地保全便益を採用しているものがあるのはなぜか。

(関東局) マニュアル上、災害防止便益、山地保全便益をそれぞれ計算し、重複計上排除のため高い値の便益を採用している。

(委 員) 消波ブロックの一部を捨石にすることでコスト縮減を図っているとのことだが、どのような方法か。

(関東局) 通常は捨石を基礎としてその上に消波ブロックを積み重ねて保護している

が、波の影響の小さい箇所では捨石のみ設置することによってコスト削減を図っている。

(委 員) 海岸侵食防止便益には、国土の侵食も含まれるのか。

(関東局) 海岸侵食防止便益は、海岸侵食による土地や資産の被害額を評価することとなっている。

(委 員) 西根川上流地区は、今回の見直しで、総事業費が倍以上増えているが原因は何か。

(関東局) 事業着手後、降雨等により新たに溪床内に不安定土砂が堆積しており、その移動を防止するため、溪間工の増設を計画するとともに、溪間工整備のための資材運搬路を計画していることによるものである。

(委 員) 西根川上流地区は、崩壊地の状況を踏まえると早期に対策を実施する必要があるのではないか。

(関東局) 御指摘のとおりで、過去に実施したレーザー計測の結果でも、崩壊面積の拡大が確認されているところ。当面の対策としては航空実播工を実施しており、一部ではあるが土砂の移動が顕著でない箇所等では、緑化が進んでいることが確認されている。

(委 員) 小良ヶ浜地区は、環境省の除染廃棄物仮置場がかなり隣接しているが、侵食による影響は問題ないのか。

(関東局) 計算上、仮置場に侵食が到達するまでは25年程度かかると見込んでいる。現在、仮置場の所在する北側工区を優先して実施しており、約10年で防潮工を完了する計画であるため、仮置場への影響はないと考えている。

(委 員) 小良ヶ浜地区の評価結果(案)中の「塩害による内陸部の被害」という記述について、「害」が重複しているため、「内陸部の塩害」に修文いただきたい。

(関東局) 御意見のとおり修文する。

(委 員) 評価結果(案)には地区ごとの特性の違いが反映されているが、検討会の意見(案)は地区間で似たような記述となっているため修文いただきたい。

(関東局) 御意見を踏まえ修文を検討する。

(委 員) 検討会の意見(案)中の事業効果について、土砂の流出防止に関する記述が主となっているが、土砂の急激な移動を防止することが事業の本旨であるので、より事業の目的に沿った記述としていただきたい。

(関東局) 御意見を踏まえ修文を検討する。